

## 2023年度 事業報告書

特定非営利活動法人 地球の友と歩む会

## 1 事業の成果

自然と共生し自立した社会を目指し、インドネシア共和国スンバ島の東スンバ県にて【マングローブの植林】【栄養改善】【有機農業研修】【絵本寄贈の追跡調査】を実施した。その他ではバリ島での事業の活動発表、インド共和国で実施した支援の追跡調査や活動報告を行った。日本国内では活動報告や活動紹介、および市民向けのイベントやボランティア会を実施した。

## 2 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【11,562】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
海外協力事業 ※スンバ島での活動	<p>①マングローブ植林 目的：マングローブの伐採はインドネシア政府が禁止しているが盗伐や開発で伐採されるなどして自然の荒廃が進むエリアにおいて植林を実施する。</p> <p>活動報告： 10月、日本からのボランティアと地元の高校生などが植林活動に参加した。</p> <p>日本から渡航した専門家の指導の下、より適切な植林場所を特定し、区画を計測してから計画的に植林することができた。住民や家畜が通ると考えられる陸側には、植林苗木一本ずつネットでカバーをして倒されないようにした。10月には日本からボランティアが渡航し、地元の人たちと一緒に植林活動に参加した。植林に参加した高校生が専門家に環境に関する質問をしていたことかから、高校生たちが環境問題に関心があることがわかった。計1,000本を植林した。</p>	2023年 1月～ 2023年 12月	インドネシア共和国 東スンバ県 ワトゥンバカ川河口	2	ワトゥンバカ川河口近隣の住民および近隣の高校生	100人	9,811

<p><b>②栄養改善支援</b>  <b>目的：</b>東スンバ島農村部の貧困を改善する。モデル事業地と取り違え野菜作り、豆作り、いけすで行う。加工品は販売するのは収入源とする。</p> <p><b>活動報告：</b>月に一度の小学校での昼食の提供、二ヶ月に一度の子どもたちの身体測定が継続された。8月には子どもたちによる有機農業の発表会が行われ、有機肥料の作り方や種の蒔き方などを人づつ発表した。9月には助成機関のファンデーション3名が事業地を訪問し、実際に支援地の状況を視察した。その際にLIFEスタッフとアドバイザーの日本人小児科医から栄養に関する紙芝居を行った。他村からの視察も受け入れた。</p> <p>有機農業や栄養に関するテストから事業対象者が知識を身につけていることを確認した。また、家庭訪問での保母ら、事業開始前にはほとんど食べられていなかった動物性たんぱく質をでさう努力していることが分かった。村たちの自主的な活動として、自ら畑を増やし、当事業で身につけた有機農法を村の他の住民に教えている。養魚についても複数の村人自身で増やし、魚の数を増やしている。</p>	<p>2023年 4月 ～ 2024年 3月</p>	<p>インドネシア共和国 東スンバ島 ライパンダック村</p>	<p>2</p>	<p>ライパンダック村 住民</p>	<p>100名</p>
<p><b>③飼料用トウモロコシ栽培事業</b>  <b>目的：</b>スンバ島では食用のトウモロコシはほとんど売れる農作物では</p>	<p>2023年 4月～ 2024年 3月</p>	<p>インドネシア東スンバ島</p>	<p>2</p>	<p>東スンバ島内で飼料用トウモロコシ</p>	<p>45人</p>

<p>ない。インドネシアでの民しこ 飼料用トウモロコシの栽培に 需要が理解して収入を 販賣して得る</p> <p>当事業に参加を希望す る住民が順調に集ま り、クタクタの農地を 準備した。また昨年 に収穫したトウモロ コシの売上金で、地 も1ヘクタールを備 えたり雑草刈り、畑 にきり、年々準備が 進んだ。雨期に入ら ず、雨が終り、種ま きは遅れた。事業と ら た。</p> <p>トウモロコシを食ベる 家の健康を考トウモ シは有機農法で収穫 られた。昨年度に新 し、販賣したトウモ コシの売上金で、地 農地を今後現地NGO ラ、ジオMAXが同様 手段で飼料用トウモ コシ農家を増やすこ ができた。</p>				<p>栽培を希 望した農 家</p>		
<p>④農村部の子どもたち の絵本寄付その後の調 査</p> <p>目的：子どもたちが 絵本をよむこと が向上する。</p> <p>絵本を贈呈した小 学校の先生が、こ れをよむことに 熱心な様子 が観察された。</p>	<p>2023年 4月～ 2024年 3月</p>	<p>インド ネシア 東スン バ県</p>	<p>1</p>	<p>東スン バ県農 村部に ある小 学校児 童</p>	<p>10,000人</p>	

	た。また、文字がわからない一年生は高学年の子どもたちが読むのを見て興味津々な様子だった。					
海外協力事業 ※その地域	⑤バリ島給水事業 「第25回日本水大賞・2023日本ストックホルム青少年水大賞」の表彰式・受賞活動発表会に出席。表彰と活動発表を行った。	2023年6月15日	日本国	3	日本国内の水に関心のある市民	30人
	①インド貧困農家の有機農業の支援その後 新たに開店したオーガニックショップを訪問。農家から定期的に有機野菜が届けられ、今は固定客もでき安定した運営が出来ているとの報告を受けた。	2023年4月～ 2024年3月	日本国	3	日本国内の国際協力に関心のある市民	300人
	②インドSHGによる教育ローン運営支援 報告書を公式HPに公開。					
	日本とスンバ島の若者による水車ポンプ開発 目的：水へのアクセスを確保することにより住民が抱える農業、貧困、衛生などの問題解決につなげる。また燃料を使わず川の流れる力で水をくみ上げるようになる。 日本側での組み立て作業や実験の様子を動画に撮り、現地でイメージしやすいように部品の紹介から、組み立て、実験の様子を一本の動画にまとめた。パーツリストや設計図をボランティアの大学生が作成し現地へ送付。現地NGOが組み立てポンプを製作した。	2023年4月～ 2024年3月	インドネシア 東スンバ県	1	水へのアクセスが困難な東スンバ県貧困地域  環境や国際協力に関心のある日本人	50人

<p>海外交流事業</p>	<p>マングローブ植林ボランティア交流</p> <p>目的：地元の小学生とボランティアと植林することによって環境教育の足掛かり、文化交流の実施。</p> <p>地元の高校生および教職員約30名と一緒にマングローブの植林を行った。日本から同行したマングローブの専門家から環境保全や生態系に関する話を聞いた。10月28日には高校で行われた青年の誓い記念式典に招待された。その他、スンバ島の自然を観察したり、参加者が関心を抱いていた旧日本軍の戦時中の遺構を見に行った。</p>	<p>2023年 10月25日 ～ 10月29日</p>	<p>インドネシア 東スバ バ県ワ トゥン バカ川 河口</p>	<p>1</p>	<p>ワインガブ市内の高校生  環境や国際協力に関心のある日本人</p>	<p>50人</p>	<p>1,094</p>
<p>国際理解促進事業</p>	<p>地球の友と歩む会が行う活動や支援内容を伝える講義、学習会、取材の受入れ、広報活動を実施した。</p> <p>また国際協力に関心のある方が日本から参加できる場としてボランティアの受入れを実施した。</p>	<p>2023年 4月～ 2024年 3月</p>	<p>日本国</p>	<p>1</p>	<p>環境や国際協力に関心のある日本人</p>	<p>4/29 メーデー中央大会出展 (30名)</p> <p>6/21 埼玉県の中学校:校外学習受入 (5名)</p> <p>7/29 えびな市民活動センターにて活動紹介イベント(20名)</p> <p>10/1 グローバルフェスタ:オンラインイベント 出演(10名)</p> <p>2/10～2/11 出展:ふれあい満点市場 (計30名)</p> <p>2/20 東京ボランティア市民活動センターが発行する情報誌取材受入: 約7000部配布</p>	<p>655</p>

						無料オンラインイベント (5/28 : 38名) (1/19 : 18名)  YouTube 動画投稿 約100名視聴  会報誌の発行 (4月12月各2回) 計400の個人団体に配布  SNSの更新 【Instagram・X・facebook】  計1000名  メルマガ発行 計1000名  ボランティアの受入れ 延べ約100名	
--	--	--	--	--	--	---	--

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 0 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)
実施なし					